

災害発生時 緊急対応業務

現場経験と 行政官としての知見をもとに 災害や事故 の危険から国民の命を守る

消防庁の行政官は、平常時における消防防災業務、そして災害時などにおける緊急対応業務という2つの重要な任務を担っています。ここでは、理系行政官が平常時および有事に、それぞれどのような業務を遂行しているのか、平成28年に発生した熊本地震の事例を交えて紹介します。

Profile

鈴木 健志

すずき たけし

消防庁危険物保安室課長補佐

平成18年 入庁 消防庁危険物保安室

平成19年 神戸市消防局消防学校、
北消防署消防第三係

平成20年 神戸市消防局警防課計画係

平成21年 消防庁総務課企画係長

平成23年 気象庁総務部企画課危機管理調整係長

平成25年 消防庁予防課設備係長

平成26年 神戸市消防局予防部建築課長

平成27年 現職

対策本部で、被災した地域で、被害抑制のために最善を尽くす

熊本地震が発生した4月14日は、消防庁の危機管理センターに参集し、熊本県庁や市役所、県内の消防機関から被害状況や住民の避難状況などを確認する情報収集班の統括を行いました。職員が総出で任務を遂行する中、2日後の未明にも地震が発生。私は総理官邸の危機管理センターで、政府対策本部のサポートメンバーとして消防庁と政府間の調整役を担いました。その後、大きな被害を受けた南阿蘇村へ派遣されたのは、発生から1週間ほど経った頃です。現地では、地元の消防本部や消防団、県内や九州全域から駆けつけた応援部隊が救助活動を行っており、その活動調整が主な役割でした。また、安倍晋三総理大臣が激励視察に訪れることが急速決定し、現地の活動状況を見ながら、どのような体制で総理を迎えることが隊員たちにとって最善かを考

慮して、受け入れ調整を行いました。当日、総理が集まった消防隊員一人ひとりと握手をしてくださり、現場の士気が上がったことは今も強く印象に残っています。



安倍晋三総理大臣と鈴木

一人でも多くの命を守るために自分にできることがある

南阿蘇村の救助現場のひとつでは、当時大規模な土砂崩れが起きていました。土砂災害は、雨が続き二次災害の危険性が高まるため、救助活動の中断・再開の判断が必要でした。そこで、土砂災害の専門家のアドバイスのもと、現場の状況を自分の目で確認した上で、消防、警察、自衛隊の現場責任者による活動方針の決定をサポートしました。多くの人々が関わり、混乱した状況にある災害現場では、誰かが重要な判断を促さなければならぬ場面があります。東日本大震災で福島県庁に派遣された際、経

験不足もあって思うように動けなかった体験を教訓に、熊本地震では自分に出来ることを率先して行いました。これまで消防の現場で学んできたことが被災地で発揮できたように思います。その後、地元の消防機関の方々から感謝の言葉をいただいたときに、被災地の方々の力になれたという喜びと達成感を覚えました。今後は、さらに多くの人々の命を守るため、海外の大規模災害発生時に国際緊急援助隊の一員として出動し、より広いフィールドで災害対応の経験を重ねたいという目標があります。

平常時 消防対応業務

技術的な知見にもとづき安全基準を法令に反映する



ガソリンスタンドや石油化学工場などの産業施設で万が一事故が発生した場合、国民の暮らしに様々な影響が及ぶおそれがあります。そこで、技術的な視点から事故の防止策を検討し、消防法令の基準などに反映することで危険物による事故から国民の生命、身体、財産を守ることが現在の私の仕事です。例えば、水素スタンドを併設する給油取扱所の安全対策

の検討では、過去の事例や想定される事故パターンをふまえて、実証試験やシミュレーションを実施。実際のシミュレーションは専門機関へ委託しますが、条件の設定や解析結果の評価等は理系行政官の役割です。また、航空機給油時の静電気対策の法改正では、実際に空港で給油作業を視察し、安全性を検証した上で法令基準に反映しました。もともと、高校生

の頃に初めて乗った飛行機のジェットエンジンの力強さに感動して大学で航空宇宙工学を専攻したこともあり、自分が培ってきた知識を活かして安全に関わる仕事を達成できたことは非常に感慨深かったです。技術的な知見を活かし、人々の安全や生活を守るための一翼を担うことに、消防庁理系行政官としてのやりがいを感じています。



空港にて給油作業を視察